

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4098700117		
法人名	社会福祉法人光輪会		
事業所名	グループホーム恵のいえ		
所在地	福岡県みやま市高田町濃施501-3 (電話)0944-32-9735		
自己評価作成日	令和4年11月7日	評価結果確定日	令和5年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

みやま市高田町の中心部に位置しています。交通の便利も良く、JR、西鉄電車の駅からも近いです。南側には協力病院があります。外来診察、訪問診察でお世話になっています。24時間いつでも診てもらえる安心感があります。近隣には食料品店、菓子店、図書館などがあり買い物にも便利です。近隣住民の協力を得ながら、地域に密着した生活感あふれるホーム作りを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和4年12月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、最寄り駅から徒歩圏内のアクセスの良いところで、母体法人の協力病院が側にあり、保育園や民家に囲まれている。事業所の外観は落ち着いた雰囲気があり、歩行器・車椅子の方でも安全に出入りができるゆったりしたスロープを設置している。コロナ禍前は地域の方や家族、ボランティアとたくさんの方の出入りがあり、盛んに交流をもっていたが、現在は感染状況や予防の観点から交流が難しい状況である。その中で事業所内で感染対策に留意しながら行事等を行い、利用者が安心して生活ができるように施設長・職員全員で取り組んでいる。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を常に見える場所に提示している。朝礼時に全員で唱和して、理念の共有と実践に努めている。	理念は具体的、実践的で、日々のケアの中で活かせるものとなっている。毎日の朝礼で唱和し、年1回、理念について話をする機会を設けている。日常でも職員同士が話をする機会があり、声かけの仕方やタイミング等、理念に沿った対応となっているか振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に事業所として加入している。町内清掃などに参加している。新型コロナ流行前は、小学校の学校行事に協力し、子どもたちにお風呂を提供するなど、地域住民との交流に努めてきた。収束すれば、また始めたい。	自治会に加入し、年2回の空き缶拾いや河川浄化等の清掃活動に参加している。コロナ禍前は、事業所で行事を行う際には地域を個別に訪問して声かけしていた。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ流行前は、ボランティアを受入れ、行事に参加してもらい、交流をもつことで認知症の理解を深めてもらっていた。収束すれば、また始めたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回計画している。利用者の近況報告、行事などの報告、質疑応答を行い、意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。施設長が構成員の所へ出向いて説明し、意見をもらっている。出された意見は検討して、サービス向上に活かすようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話で用件を済ませることが多い。新型コロナ流行前は地域密着型サービス事業者連絡協議会、運営推進会議、地域連携懇親会などに参加して、意見交換や協力関係を築くように努めてきた。収束すれば、また参加したい。	行政も参加している連絡協議会や地域連携懇親会に参加している。日頃からワクチン接種や事故報告等について電話連絡するなど、行政と協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の研修会、施設内でも会議、研修会を行い、周知している。昼間は施錠しないなど拘束をしないケアに取り組んでいる。指針も定めている。	日中は玄関・居室とも施錠はしておらず、玄関ドアにはドアベルを付けている。職員は利用者の外出傾向を把握し、落ち着かない様子の時は職員と一緒に話したり、利用者が興味のあることに誘ったり、外出を見守る等、工夫している。3ヶ月に1回、身体拘束に関する内部研修を行い、法人での研修は一部の職員が参加し、伝達研修をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人全体の研修会、施設内でも研修会を行い、周知している。虐待発見のチェックリストを使用している。入浴時には皮膚観察を行い、随時報告を受けている。日頃から防止に努めている。指針も定めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の研修を行い、周知している。家族へもパンフレットを作成し、説明している。パンフレットがいつでも渡せるように玄関に置いている。	入居時に利用者や家族にパンフレットを用いて説明したり、年1回、パンフレットを送付してお知らせしている。内部研修を実施しており、研修記録を整備している。職員は家族から相談があった時は説明し、制度利用への橋渡しをしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の説明はもちろん、法改正に伴う変更事項が発生した場合でも、重要事項説明書にて変更になった箇所をマーキングし、説明と交付を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いている。家族が来られた時には様子や意見を聞いている。希望があれば運営に反映させるようにしている。	日常の中で職員は利用者から話を聴き、意見や希望を把握するようにしている。コロナ禍前は、毎月のお茶会の時に家族の希望を聞いていたが、現在は、面会時や病院受診付き添い時、状況報告の電話連絡等の際に意見や要望を聞くようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、終礼時はもちろん、月に1回は職員ミーティングを行い、提案事項、変更事項の確認を行っている。	自己評価については施設長が個別に意見を聞いて原案を作り、職員へ回覧を行って意見をまとめる等して職員全体で取り組んでいる。職員からの提案がある時は、いつでも施設長へ相談ができるように努めている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、勤務実績、能力などを精査・評価を行い、賞与に反映させることとしている。職員が各自で目標を設定し、その評価を上げるための助言、サポートを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用については、公正に試験を行っている。また、職員個々の能力が発揮できるような外部研修・内部研修を行い、資質向上に努めている。	採用は法人で行っており、性別や年齢等で排除することなく、公正に行っている。資格取得のための研修への参加も可能で、仕事に対する動機付けにもなっている。シフトの希望や有給休暇の取得もできており、職員が生活を大切にできるように配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体の研修会、施設内での研修会を行い、周知はしている。高齢者の虐待問題を含め、人権を尊重するための教育に努めている。	仕事をする上で知識として知っておかないといけない大切なことであるという認識のもと、法人内研修・内部研修を行い、全職員が参加をして、人権教育に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力を考え、外部・内部研修を行っている。個人の業務目標も達成できるように、本人と打ち合わせをしながら進めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナ流行前は、地域密着型サービス事業者連絡協議会、運営推進会議、地域連携懇親会などに参加してネットワーク、質の向上に取り組んできたが、一堂に会することが困難になってからは、リモートで参加するようにしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に見学と面談をしている。これからの生活の様子を写真を見てもらい、説明することで安心されるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前はもちろん、入所後も本人・家族と面談をしながら関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に尋ねて、何が必要かを確認して対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な生活とその人の生活リズムを把握し、何でも話せる関係、生活パートナーとなれるように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の予定表、新聞などを配布して生活の様子を伝えている。新型コロナ流行前はイベントの案内等も行い、良好な関係作りに努めてきた。収束したらまた始めたい。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の写真を飾ったり、面会や電話の取り次ぎ、手紙の代筆などを行い、関係作りに努めている。	日々の生活の中で、馴染みの場所や人を把握をするようにしている。知人から電話があった時は、本人の承諾を得て取りついでいる。昔の知人とお茶会で偶然会ったことをきっかけに手紙のやり取りの手伝いをする等、今までの馴染みの関係が継続できるように支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、体操、歌等、利用者同士が関われるプログラムを準備している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても面会に行っている。入所先へアドバイスをしたり、経過の確認をするなど、相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族と定期的に面談を行い、希望・意向の把握に努めている。	施設長や職員は、日々の関わりの中で、利用者に声をかけ、意思疎通が困難な利用者には、家族から聞き取る等して、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより情報を収集し、生活環境を整えるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活シートを作成し、個人の生活を大切にしている。現状把握も朝礼、終礼、ミーティングの場を使い、情報の共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、又は6ヶ月に一度は計画を見直している。家族や本人の意見を聞き、介護計画を作成している。	担当者はケアプランの実施状況を日々モニタリングし、毎月評価している。その評価に、他の職員の意見や主治医からの情報や助言、家族の意向等を加えて担当者会議で検討している。6ヶ月に1回、または状態変化に応じて見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンソフトを使い、食事・排泄・入浴などの項目、生活の様子等は画像を取り込み記録している。職員も自由に閲覧でき、情報の共有、評価、計画の見直し等に活用している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナが流行する前は、ボランティアに協力してもらっていた。お茶、創作等の活動をされている。家族には買い物、外食、散髪等の協力を得ていた。収束したらまた始めたい。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナが流行する前は、ボランティアに協力してもらって、本人の楽しみ作りに活かしていた。収束したらまた始めたい。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員に主治医を持ち、定期的な通院、または往診にて診察を受けている。医師と連絡を取り合い、日々健康管理に努めている。	契約時に、受診は家族の付き添いが原則であることを伝えている。家族の付き添いが困難な場合は事業所が支援している。主治医への情報提供等は、書面で家族に渡している。受診後は、家族から医師の指示や情報を聞き取り、職員間で共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが、毎朝、随時のバイタル測定と利用者から聞き取りをしている。協力病院へ状態を報告し、アドバイスを受けることもある。内容と情報は職員間で共有して、早期発見、早期治療に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には面会に行き、病棟スタッフ・連携室と情報交換を行い、退院時に対応が迅速に進むように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応の指針を入所時に説明している。また、協力病院や関連施設の特別養護老人ホーム等の協力を得ながら、チームで対応できるように努めている。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針を明文化している。入所時に家族等に事業所ができる支援について説明している。状態変化に応じて、関係者で話し合いをして情報を共有し、支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを整備しており、さらに実践できるように研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て避難訓練を行い、避難の方法・連絡方法を職員間で共有している。	マニュアルを作成し、年2回火災・水害想定避難訓練を行っている。食料品関連の備蓄品は適切に保管されている。今後、防寒用品等の備蓄について検討していく予定である。BCPが災害の種別や課題に応じて整備されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を心がけている。話す時は同じ目線、人格、プライバシーを損ねない言葉かけを心掛けている。また、施設内研修にて意見を聞き、内容を提示し、周知している。	職員は、利用者の人格の尊重やプライバシーの確保に留意しながら、言葉かけや対応を行っている。施設長は、事業所外で利用者について話題にすることがないよう職員に周知している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話をしながら、本人の希望を聞いたり、その旨を家族へ説明し、なるべく意向が叶うようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人へ尋ね、希望に添うよう支援をしている。家族へ買い物をお願いをすることもあ		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗顔後、洋服の好みを尋ねて着替えている。食後に汚れた衣類を交換することもある。美容師に頼んで散髪をお願いしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さん甘いものが好きなので、誕生日の月はケーキを作ることがある。普段の食事も職員と利用者で、盛り付け、配膳、片付けなどを行っている。	職員と利用者は、一緒に食事の準備や片づけを行っている。調理場は大広間にあり、調理の匂いが漂っている。食事の際には穏やかなBGMを流し、気の合う利用者同士でテーブルに付いてもらい、食事を楽しむことができるよう支援している。献立や食材は法人本部が用意しているが、利用者の希望に可能な範囲で対応している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力病院の管理栄養士が献立を作成している。水分量・摂取量なども記録している。コーヒーが好きな人にはコーヒーを出したり、ジュースを出すこともある。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、うがいをしている。手直しの必要な利用者には、本人が磨いた後に再度磨くようにしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を作成し、トイレへ案内をしている。排泄自立に努めている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者がトイレで排泄できるよう取り組んでいる。トイレの入口やトイレ内には人感センサーで反応する照明が取り付けられており、利用者は夜間でも安心してトイレを使用することができる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操などで身体を動かしたり、腹部マッサージ、医師の指示で緩下剤を使うなど、便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週3回、または希望があれば毎日でも入れる環境を整えている。幅広く対応できるように努めている。	お風呂は毎日沸かしている。利用者一人ひとりの状況に合わせて、週に3日ほどの入浴を提供している。音楽を流したり、菖蒲湯や柚子湯等、季節感を味わえるよう工夫している。家族に自宅での利用者の入浴に関する習慣等を聴き取って、利用者が安心して楽しめる入浴支援を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見ながら休んでもらったり、自身で好きな時にお部屋で休んでもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の「効能書き」をファイルしている。薬を分ける時には、効能書きを確認しながら分けている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前に確認している。家族へ外出をお願いする等、入所前の生活習慣を継続できるように支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの流行前は、回覧板や新聞を一緒に配ることもあった。それぞれの家族とドライブ、外食など出かけられる方もいた。収束すればまた始めたい。	コロナ禍のため、法人の方針で、利用者は受診以外、事業所から出ないようにしている。天候や利用者の体調に応じて敷地内を散歩することもある。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を自分で持っている人もいる。新型コロナ流行前は、家族と買い物に行くこともあった。収束すればまた始めたい。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の申出があったら対応をしている。手紙の代筆をすることもある。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を材料として、天井も高く開放感がある。室内の装飾もステンドグラスを使い、目で見ても美しい空間になっている。花を飾ったり、季節感を出すように工夫している。	玄関を入ると板張りのバリアフリーの床になっている。家庭的かつ居心地の良い空間作りの工夫がある。広間は食堂部分とソファに囲まれたリビング部分とに分かれており、天井も高く広々としている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、皆さんでくつろげる空間にしている。テーブルでは新聞を読んだり、雑誌を読んだりされる。それぞれで過ごせるように工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでもらうようにしている。思い出の写真などレイアウトして、大切な空間として過ごせる工夫をしている。	ベッドやエアコン、タンス、テーブル、洗面台が各居室に設置されている。ベッド等の位置や向きは、利用者の身体状況や動線に応じて個別に調整されている。利用者は部屋に思い出の写真や小物を飾り、自分らしい部屋作りをしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーになっている。リビングを囲むように手すりを設置している。トイレ、風呂場も同様である。玄関にはスロープを作り、自立した生活が遅れるように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない